

# 夢へ近づくには「何かを諦める」のではなく「続ける」ための対策を

西谷陽子 熊本大学大学院生命科学研究部教授

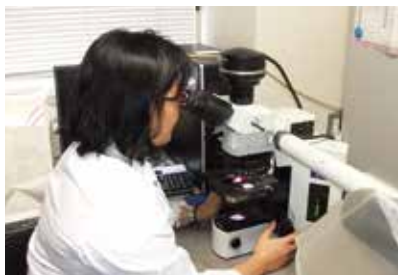
医学系  
(法医学)

## 病院以外で、医師として活躍できる場を探して

医学部を卒業する時に「病院以外の場所で“医師”として活躍できる場はないか」を探したところ『法医学』というキーワードに出会いました。進路のひとつの候補として法医学教室にお話を伺ったところ、先生に「ひとつの道をコツコツと歩いていけば、いつか山は登っていけるものだ」という言葉をいただいて感銘を受け、法医学を志す決心をしました。

その教室では「アルコールによる臓器傷害」という研究が行われており、私自身もアルコールに関する研究を継続してきました。法医学あるいはアルコールの研究は「健康な人に外的な要因が加わると、どのような傷害が起こるのか」というように“健康な人”をターゲットにしている点が特徴的です。また、致命的な事例を解析し、問題を抽出・解明することで、社会にフィードバックしていければと考えています。

解剖というのは非日常の世界で、まさに生と死のボーダーライン上にあります。その方にとっての「人生最期の主治医でありたい」という思いを胸に、



病理組織検査をしているところ

日々法医学の現場に立っています。

## プライベートの時間も大切に

アメリカに1年留学した時に、その研究者たちが時間を有効に使い、男性も女性も夕方には仕事を切り上げてプライベートを充実させながらも、研究面で多くの成果をあげているのを見て、目からうろこが落ちる思いでした。今でもなかなか時間を上手に使えないこともありますが、仕事場以外の場所で人と交流したりする時間は確保するよう心がけています。

私なりのリフレッシュ法は、ハーブティを飲むこと。数種類のハーブティを常備して、気分の切り替えを試みています。また前任地を離れる際に、学生からプレゼントしてもらった赤い名刺入れは、私の宝物。手にする度に、心が癒されると同時に、「頑張らねば」という励みにもなっています。

女子学生のみなさんに伝えたいことは「続けることの大事さ」です。何かトラブルが起こって継続が難しくなった時でも、そこで完全に諦めるのではなく「続けるための対策」を考えると、自然と道はつながっていくものです！



2012年10月12～13日に山崎記念館で開催された第62回日本法医学会学術九州地方集会



Yoko NISHITANI

医学部  
博士課程  
研究生  
研究室(協同研究)  
大学教員

### One day

7:00 起床  
8:30 大学へ  
講義・研究指導など  
20:00 終業→帰宅  
21:00 フィットネスクラブで汗を流す  
22:00 自宅へ  
24:00 就寝

プライベートの充実が仕事への意欲に繋がります

◎座右の銘  
継続は力なり  
◎リフレッシュ方法  
ハーブティを飲むこと

### profile

にしたによろこ / 1998年京都大学医学部卒業、同大学院医学研究科(単位取得退学)。2002年札幌医科大学医学部助手、講師を経て2007年よりカリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部解剖学講座に客員講師として共同研究を。2009年10月より熊本大学大学院生命科学研究部法医学分野教授、現在に至る。熊本県における異状死の死因究明を解剖業務を通して実施するとともに、アルコールや薬物中毒に関する研究を行っている。日本法医学会評議員。



Q.年収(税込)はどれくらいですか？

200万以上 3%    300万以上 5%    400万以上 13%    500万以上 25%  
600万以上 35%    800万以上 14%    1000万以上 5%